



緑の気候基金(GCF)プロジェクト形成促進セミナー

キャパビルセミナー結果報告

(一社)海外環境協力センター

松田 英美子

環境省 緑の気候基金(GCF)活用促進事業



実施事業者: (一社)海外環境協力センター

アジア工科大学

三菱UFJモルガンスタンレー証券



MUMSS

事業内容

(1) GCF資金活用にかかる調査分析

(2) 勉強会の設置

(3) 次世代型プロジェクト形成のためのキャパビル

(4) GCF資金アクセスに関する情報発信

ワークショップ開催 パラダイムシフトへの理解、途上国におけるGCFアクセス支援



日時: 2018年2月13日

場所: タイ、バンコク

参加者: タイ、バングラデシュ、インドモルディブ、ブータン、ラオス、ミャンマー、ネパール、スリランカおよび国際機関



ワークショップの目的

- 1) パラダイムシフトや革新的な変化に関する議論
- 2) “パラダイムシフト” の理解とプロジェクトへの組み込み方
- 3) 日本における低排出かつ気候変動にレジリエントな開発事業の紹介



パラダイムシフトとは

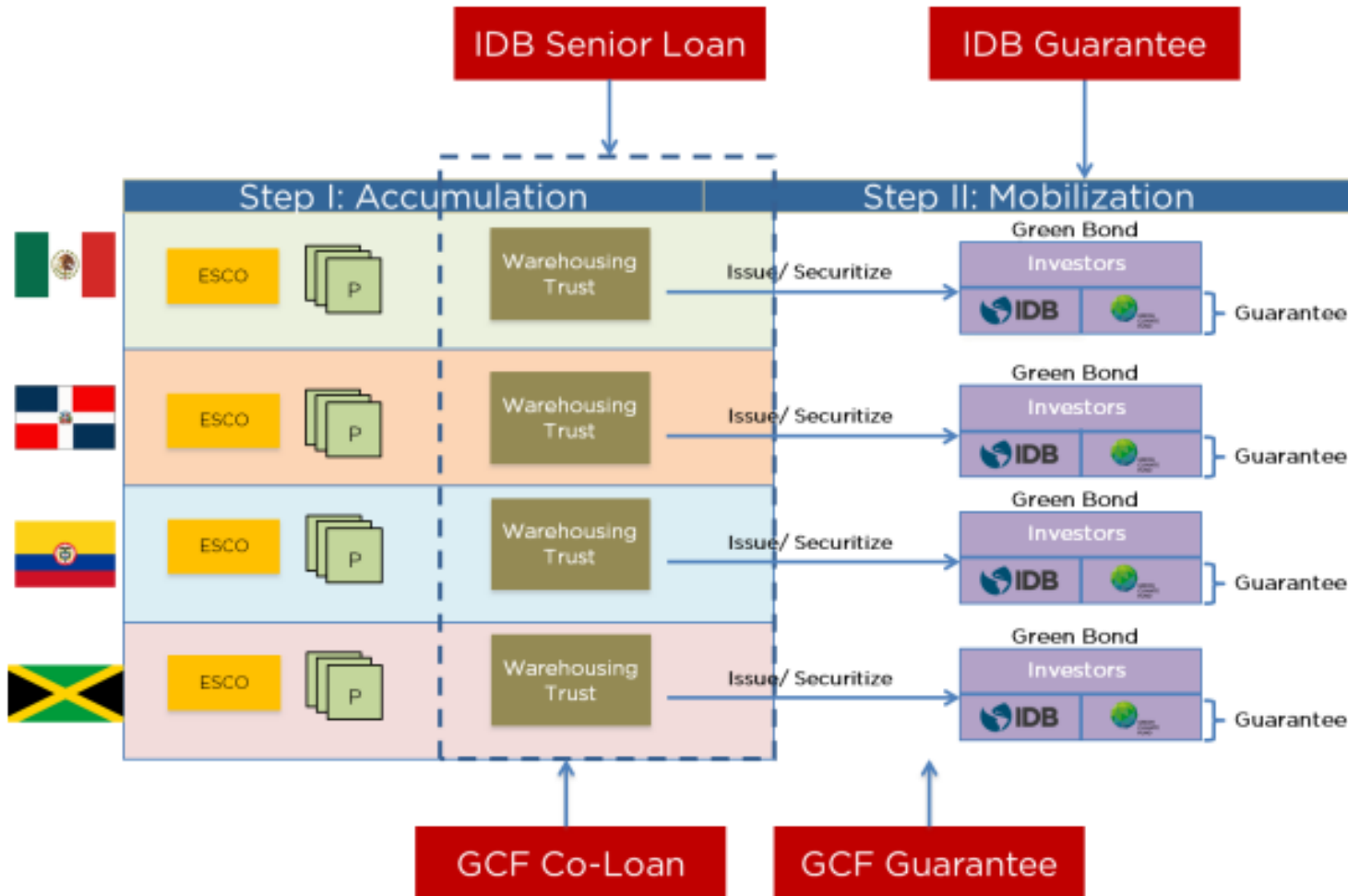
GCF投資基準：個別の投資案件を超えた長期のインパクト

歴史的には、原始社会を狩る狩猟から農業に移行することや パーソナルコンピュータとインターネットの導入が代表的な例

⇒ GCFのプロジェクトとして兼ね備えるべきパラダイムシフトポテンシャルとは何か？

パラダイムシフトの具体的なイメージ

- 新たなファイナンスの仕組みやビジネスモデルを通じた取組
- De-risking により投資を誘導し、気候変動対策に資する活動への資金供給



GCF理事会採択案件の例

GCF/B.11/04/Add.06

Funding Proposal Summary for FP006
Energy Efficiency Green Bond in Latin
America and the Caribbean

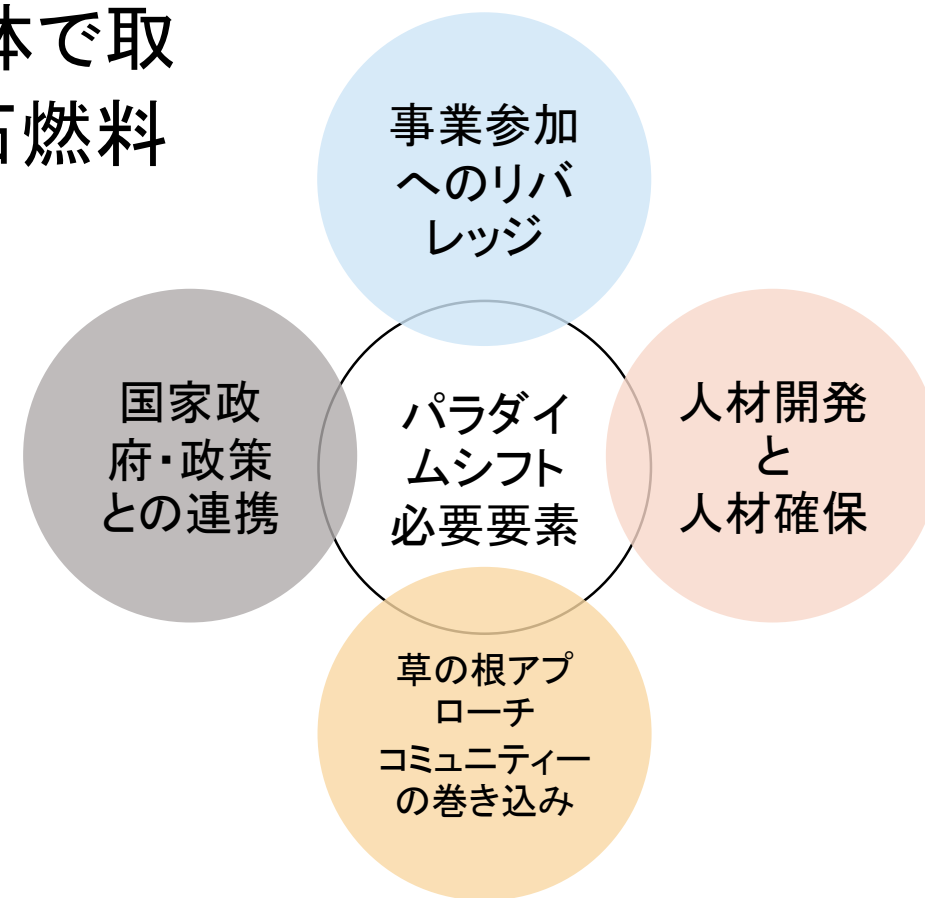
米州開発銀行（IDB）とGCFの保証により、グリーンボンドに対する格付けが可能となり、機関投資家による投資が行いやすくなった。

また、IDBとGCFはESCO事業者のために適切な利率に基づいたローンを提供。

※類似の金融的な仕組みを導入したファンディングプロポーザルは第19回理事会（2018年2月末）でも複数承認されたところ。

各国・国際機関におけるパラダイムシフトの理解

- 新しいパラダイムの探索が必要 — 包括的な成長を見出しつつ、GHG排出量の削減を世界全体で取り組む必要がある(現状でのパラダイムは化石燃料で起こっている)
- 規模の拡大、他への展開
- 知識と学びの場
- 環境整備
- 規制の枠組や政策に貢献



GCFプロジェクト構築に向けたトレーニングプログラム

日時: 2018年2月19~3月2日

場所: タイ、バンコク

参加国: バングラデシュ、フィジー、インドネシア、モンゴル、パプアニューギニア、
フィリピン

参加者28名: うちNDAより6名、AEより8名、
プロジェクト参加者もしくは関連機関より14名



AIT

期待されるアウトプット

1. GCF コンセプトノート
2. Project Preparation Facility (PPF) への申請書
3. Feasibility Study事業における作業項目 (TOR)
4. 作業工程の策定

トレーニングプログラムでの成果

- 11のGCFコンセプトノート策定（緩和8、適応3）
- GCFへの想定要請総資金 3.5億USDル
（1零細、8小規模、2中規模）
- FSに関する10 TORを策定
- 7PPF申請書（うち1つはGCF事務局へ提出済み）